

おやつのかん3 -ちょっとひとやすみ-

— 「やればできる…」 —

NO. 39



「やればできるんだあ!」「やればできるじゃな〜い」「やればできるはずでしょ」このフレーズ、最近どのモードで使いましたか?子ども達と向き合っていると、ついつい口にしたくなるのではないかと思います。言われている子どもは、どんな顔してますかね。いやいや、最近言われたのは、大人の自分だったりして。きっと、いつになっても付きまとう言葉なのでしょう。私もつい最近、言われたような気がします。何だったかは忘れましたが。

「やればできるんだあ!」と、取り組む子どもの姿を見て感激するときがありますね。

できないと思っていたことが、何かの拍子にできてしまった瞬間だったり。忙しくて手をかけてあげられないときに、子どもが自分でやってくれたときだったり。「もしかしたら、できるかも…」と、試しにやらせてみたら、できちゃった!なんてこともあります。思わずギュッと抱きしめたいくなるサプライズですね。だけど、次への期待は、少ししまっておいたほうがいいかもしれません。コンスタントに力が出せるようになるには、もうしばらく時間がかかります。「次は、また当分先」くらいに思っておくと、向き合うときに余計な力が入りません。できた事実自信を持ちながら、対応は変えずに今までどおりで。間違いなくそれが近道です。

「やればできるじゃな〜い」「やればできるはずでしょ」に「まったくもう!」と付け加えたい場面も多いかと思ひます。できる力はあるのに、あるはずなのに。やったことがあるのに。家ではできるのに。“もったいないな”“しっかりして!”と、歯がゆさや“何でだろう?”の気持ちを、子どもに向けたい瞬間ですね。言っちゃった後で構いませんので、ちょっと考えてみてください。できない理由は 为什么呢?力を出せない理由は何でしょう?

じつはまだ“いつでもどこでもできる”ほどのスキルが身に付いていないのかもしれない。何ごと地道に繰り返していくことで身に付いていきます。もう少し見守っていく必要があるかもしれませんね。できる力はあるけど、その前に何かがあって、取り組む姿勢が整わなかったのかもしれない。一日はいろいろな場面の連続です。ひとつの行為が単体で存在するわけではないので、その場のコンディションがいろいろなことに影響します。そうすると、『切り替えが上手くできているか』『今日を楽しめているか』『何か気になっていないか』といった違った視点での働きかけも必要になります。そこを解決することが近道です。

どちらにしても、できる事実があるのなら、“そんな力も持っているんだね”と、その子を信じていくことがとても大切だと思います。その場ではいろいろ言いたくなると思いますが、いつか、コンスタントに力を発揮できるようになると信じて、無理に引っ張り上げずに接していくことが、確かな力につながると思ひます。放デイの子ども達から教えてもらいました。「でしょ!」ってね。

「やれなかった」のか、「やらなかった」のか…。そう思うことってあちこちにあると思ひます。言い訳って、ズルい時もありますが、「しょうがない」と、自分に言い聞かせることで保てることだってあります。それが生活です。自分も周りの人も苦笑いできるくらいのことなら、「次がんばろう!」でいいのかも…。 “次” …いつだかわかりませんがね。(R1. 8) K

